

乗客・乗員の生命にかかわる台車の重大車両故障発生 原因・対策を求め申し入れ

JR東海労の調査によると、8月14日「のぞみ23号（JR東海所属・X編成）」が山陽新幹線・小倉～博多間で車両故障が発生し、運転台モニターに「駆動系異常」のポップアップ表示があったことが判明しました。

2017年1月25日、「のぞみ31号」が山陽新幹線・小倉～博多間で部品落下により緊急停止した事故が発生しました。今回の故障表示も新幹線の安全について極めて重大な事象にも関わらず、現場社員に何の説明もありません。

今回の故障表示はJR西日本管内で起きた事象ですが、車両はJR東海所属であり、JR東海でも故障の原因究明や明確な対策を構築するべきです。JR東海労は8月27日、『申第13号』で以下の項目の通り、団体交渉の開催を申し入れました。

- 1．今回の故障の詳細について時系列をもって明らかにすること。
- 2．故障表示した車両の編成番号と号車部位を明らかにすること。
- 3．今回の故障の原因と処置について明らかにすること。

**「のぞみ31号」事故の教訓は活かされたのか！
安全管理の責任が問われる事故だ！**